

令和四年度初任行政研修の実施概要

公務員研修所では、令和四年五月一六日から七月一五日までの間、八コースに分けて、総合職試験等で各府省に新たに採用された職員七〇七人を対象とした初任行政研修を実施しました。本稿ではその概要をご紹介します。

公務員研修所

研修のねらい

初任行政研修は、本府省において主に政策の企画立案に従事することが想定される、総合職試験等による新規採用職員を対象としたもので、国家公務員としての基本的な心構え、基礎的素養を身につけさせること等をねらいとしています。今年度は、七〇七人（うち女性二五八人）を対象に実施しました。

三年ぶりの現場訪問を含めた対面での実施

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和二年度は入間での一週間の合宿研修のみを行い、令和三年度は八日間の全期間をオンラインで実施しました。今年度は、一コース当たりの人数を講義室等で

ソーシャルディスタンスを保てる人数（約九〇名）とし、講義室等の換気・消毒等の対策を行った上で、西ヶ原研修合同庁舎での通勤による対面研修を行うとともに、福島県浜通り地域の被災地訪問を内容とする現場学習を三年振りに実施しました。これにより、①福島県の実情を学ぶ事前のオンライン研修（一週目に二時間）、②五日間の対面研修（二週目）、③五日間のオンライン研修（三週目）で各コースの研修が行われました。オンライン研修については、Web会議システムを用いたライブ配信を西ヶ原研修合同庁舎から行い、勤務先や自宅の講師と研修員を繋いで、講義、質疑応答、ブレイクアウトセッションを用いた班別討議を行うなど、研修員が主体的に参加できる研修を行いました。

【二週目、三週目のカリキュラム例】

		6/20 (月)	6/21 (火)	6/22 (水)	6/23 (木)	6/24 (金)
第2週 (午前) (午後)	開講式 オリエンテーション	コミュニケーション 研修	班別討議 ②	国際行政の現場	被災地訪問オリエンテーション	被災地訪問
	研究班自己紹介・チームビルディング			公務員の在り方（事務次官講義）		
	行政政策事例研究・基調講義 班別討議①	人権	公務員倫理を考える	班別討議③	被災地訪問	
			中間報告	移動・前泊		
第3週 (午前) (午後)	オリエンテーション	政策ディベート	班別討議④	班別討議⑥	若手公務員の歩み	
	ディベート班自己紹介 被災地訪問振り返り					
	政策ディベート	政策ディベート	市民協働 班別討議⑤	行政政策事例研究・全体討議 研修総括（班別討議）	開講式 小論文作成・意見調査票記入	

研修内容

今年度は、コロナ禍で昨年度来取り組んできたオンライン実施のノウハウを十分に生かしつつ、二年ぶりの対面研修、三年ぶりの現場学習を行うことで、国民全体の奉仕者としての使命感の向上、初任行政官としての資質能力の向上を図るとともに、府省を超えた研修員間の相互理解と信頼関係がより深い形で醸成されるよう、カリキュラムの設計や課業ごとに多様なグループ編成を行いました。また、課業外の時間も研修員間での物理的な密を回避しながら、対面による懇親の機会や交流機会が広がるような工夫を行い、研修員同士の自主的な交流が行いやすくなるよう配慮しました。

○福島事前研修

福島県浜通り地域の被災地での研修を意義あるものとするため、津波被害・原子力災害の経緯、復興に向けたこれまでの取組、現在及び将来に向けた課題について、福島県庁の橘清司企画調整部長からオンラインで講義を頂きました。

○チームビルディング

対面研修の冒頭において、二週間にわた

る行政課題の研究(後述)に取り組む班単位でのアイスブレイクと、同じコースに参加する研修員間の一体感の醸成を目的として、これまでの自分の歴史を話し、ほかの班員は話し手との共通点をコメントする「自己語りゲーム」と、初対面の研修員同士が気軽に会話を始められるよう話題を提供する「投票予想ゲーム」を実施しました。



開講の挨拶をする幸公務員研修所長

○行政政策事例研究、政策課題研究

東日本大震災、成田空港建設、消費税導入、長良川河口堰建設、福島復興事例等のこれまで行政が取り組んできた具体的な行政政策事例や、安全保障、外交、社会保障などの府省共通の重要な政策課題を題材

に、行政官OBや現役の幹部職員、研究者等からの講義を聴き、具体的な課題研究を対面研修及びオンライン研修を通じて二週間にわたって班ごとに討議を進めながら行い、最後に研究発表を行いました。これらを通じ、行政官として取るべき行動について多角的視点から考察しました。



課題研究に取り組む研修員

課題①

通常国民の反対が大きいことが予想される行政課題に取り組むとき、よい結果を得るために行政側としてはどのような配慮が必要か。
企画・法案提出・実施の各段階に分けて考えよ。



課題研究発表資料

【研修員の声】

・所属府省によって考え方や意見発信の仕方が異なり、様々な知見を交えた対面研修ならではの活発な議論ができた。
・研究発表を通じて、一つの課題に様々なアプローチや意見の違いがあることを学

んだ。他者の意見を聞くことの重要性を
実感した。

○人権

人権問題に直面した方や課題解決のため
に活動している方から体験に基づいた講義
を聴き、我が国が抱える人権問題の現状を
認識するとともに、人権に対する意識を高
めました。

【研修員の声】

・人権の現場で活躍される方の話を通じ
て、政府との関わり合いや人権を守る重
要性を理解することができた。

○公務員倫理を考える

公務員倫理に関する法制的な規制内容の
勉強ではなく、倫理学の知見を踏まえた班
別討議方式による事例研究などを通じ、公
務員としての倫理的な行動の在り方につい
て検討し、実践への動機付けを図りました。

【研修員の声】

・事例を通じて、正解のない倫理的問題に
ついての考え方を学んだ。公務員の使命
として何をすべきか考える機会となった。

○国際行政の現場・諸外国から見た日本 自衛官、JICA職員、国際機関職員、

諸外国の外交官等の方々から現場に根差し
た講義を聴いた後、グループに分かれて座
談会形式で意見交換を行いました。我が国
の置かれている立場、国際協力の在り方等
について認識を深め、今後、国際社会にお
いて我が国に求められる役割を深く考えま
した。

【研修員の声】

・国際的な現場で我が国が果たす役割、安
全保障や国際協力への理解が深まった。
・外交官から見た日本や安全保障の話が興
味深かった。英語をしっかりと習得したい。

○事務次官等、先輩職員からの講義

各府省事務次官に登壇を頂き、行政官と
しての心構え、期待される公務員像につい
て話を伺いました。また、各府省の課長補
佐級職員から、実際の政策形成に当たって
必要となる視点や関係者との調整の在り
方、今後のキャリア形成に向けた話を聞き、
公務員として働くことについての意識を高
めました。

【研修員の声】

・頂いた言葉を胸に刻み、職業人生を歩み
たい。人間味ある行政官になりたい。
・目指したい公務員像を描くことができた。

○市民との協働、特別講義

コースごとに、貧困、子育て支援、難民
等の社会課題に取り組んでいるNPO等の
方々や専門家の話を聞き、社会問題の背景、
現状、今後の課題等について学びました。

【研修員の声】

・社会起業家の熱い思いに触れ、大変刺激
を受けた。現場に思いを馳せながら、政策
に反映させていく使命と決意を強くした。

○コミュニケーション

テレワークの普及等の環境変化を踏ま
え、職場において上司、同僚等と円滑なコ
ミュニケーションを図るための効果的な手
法について、アクティブラーニングの手法
も取り入れて学びました。



コミュニケーション科目で
のワークの様様

○政策ディベート

「ライドシェアを日本に導入すべきか」との論題について、肯定又は否定の立場から立論・反論を行い、審判の立場から双方の立論の論理性・説得力を客観的に判断することで論理的コミュニケーション能力を高める機会を設けました。

○現場学習

福島県浜通り地域を訪問し、視察、関係者との意見交換等を通じて、復興に向けた取組や地域の現状と今後の課題について理解する機会を設けました。現場学習の機会・実施に当たっては、環境省、中間貯蔵・環境安全事業株式会社との協力を頂き、中間貯蔵施設を視察するとともに、東日本大震災・原子力災害伝承館、震災遺構の請戸小学校を見学し、最後に被災地での学びを振り返るワークショップを行いました。現地では、福島県観光物産交流協会の協力を頂き、被災地での復興活動に取り組み方々にこれまでの取組と課題についてお話を頂きました。

【研修員の声】

・実際に被災地を見ることで、心が大きく動かされた。国の抱える問題の大きさを実感し、身の引き締まる思いだった。

・地元で震災を体験された方から説明をお聞きし、大変勉強になった。自分事として、行政官として何ができるか考えていきたい。



中間貯蔵施設への訪問



被災地での振り返りワークショップ

研修を終えて

アンケートの結果では、この研修について「大変有意義」又は「おおむね有意義」とする割合が九五%以上となりました。一方で、コロナ禍以前には五週間の研修が行われていたことから、地方での研修機会の延長へ合宿研修を望む声が多数ありました。こうした声も踏まえつつ、今後とも、初任

行政研修の目的である国民全体の奉仕者としての自覚、国民全体の視点から施策を行うための基礎的素養・見識を養い、研修員相互の理解と信頼を深めることができるよう、引き続き努めていきます。

最後になりましたが、御指導いただいた講師の皆様と、各府省の研修担当者及び研修員の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

【研修員の声】

・議論を行うことがベースの研修で、自分の力不足を実感する一方、仕事へのモチベーションを高める機会になった。
 ・多様なプログラムを通じ、行政官に求められること、大切にすべきことを学んだ。
 ・普段の業務では得難い経験であり、学んだことを日常業務で生かしていきたい。
 ・省庁の垣根を超えて、多くの仲間と知り合い、熱い思いや視点の違いをぶつけ合うことで、多くの刺激と学びを得た。合宿研修なら、一層親睦が深まったと思う。
 ・自分の意見を伝える力を鍛える実践練習の場となった。